イスラ ムに してよくある７つの （パ ト2/2）

：

明:イスラ ムについてよく かれるいくつかの 。パ ト2:イスラ ムの教えとクルア ン

目: 事イスラ ムの信条イスラ ムとは?

より: ダニエル マスタ ズ、イスマイ ル カカ、ロバ ト スクワイアズ

日06 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

5. イスラ ムの教えとは何か?

イスラ ムの信仰の基 は 的唯一神の信仰です。これはかれ以外に崇 に するものや神 なものは何もなく、宇宙の全ての 造主かつ 持者は唯一であることを意味します。事 、神の唯一性を信じることとははただ に“唯一神”を信じる以上のことであり、二つ、三つ、四つといった 数の神を信じることとは全く 照的です。多くの宗教が“唯一神”信仰を 榜し、宇宙の 造者、 持者はただ一人であると言いますが、本当の一神教とは神が遣わした使徒に って、唯一神のみが崇 されるべきであることを信じることです。イスラムは神と人との のあらゆる仲介者を拒否し、全ての人々が神に直接近づき、そしてかれだけに全ての崇 行 を向けるように しています。またムスリムは全能の神が思いやりのある、 情に ちた慈悲深い神であることを信じています。

よくある った考え方の一つに、神はその被造物を直接お赦しにはならない、というものがあります。罪の重荷と の な 、また神は人 を直接赦すことが出来ないという主 は、に人々を神の慈悲に して 望的にさせます。そして一旦神に直接近づくことが出来ないと 信すると、人は英雄や政治家、救世主、 人、天使など の神々に助けを求めるようになります。私たちはしばしばこれらの の神々を崇 し、それらに祈り、またそれらにとりなしを求める人々を 出します。彼らは唯一神の信仰を主 しますが、ただ神に近付く

ために神以外のものに祈ったり崇 したりするだけなのだ主 します。イスラ ムでは、 造者と被造物に明らかな いがあります。神性の　に不明瞭さなどありません。いかなる被造物も崇 に するものはなく、 造主であるアッラ のみが崇 に するのです。ある宗教は神自身がその被造物になったのだと 解してしまい、それゆえに 造主に近付くためには神以外の何らかの被造物を崇 することが出来ると人々に信じさせてしまったのです。ムスリムは神が唯一であり理 的理解を超越した至高の存在であると信じていますが、 してかれに仲 や共同者、 等者や 争相手、子 などはないのです。ムスリムの信仰によればアッラ は文字通りの意味でも寓 的意味でも、また比 的意味でも物 的 形而上的意味においても、“御 みなさらないし、御 れになられたのではない”のです。かれは完全に唯一で永 です。彼は全てをコントロ ルしていて、その 限の慈悲と赦しを でもかれの んだ者に与えることが可能なのです。これがアッラ が全能で最も慈悲深い方と呼ばれるゆえんなのです。アッラ は人 のために宇宙を 造し、全人 のために最善のものを 造しました。ムスリムは全宇宙の中に全能の神の 造性と慈悲心の印を 出します。また、アッラの唯一性への信仰はただの形而上的概念ではありません。それは人 性、社会、そして生活の全ての 面に渡る考え方に影 するのです。アッラ の唯一性に基づいたイスラ ム信仰の 理的　は、人 性と全人 の唯一性への信仰です。

6. クルア ンとは何か?

クルア ンは至高なるアッラ ご自身により、大天使ジブリエルを通して 言者ムハンマドにアラビア の音色と言 と意味でもって　された、全人 に するアッラ からの最 の 示です。クルア ンは（しばしば ってコ ランとされる）はその 、 言者の教友たちへと受け がれましたが、彼らはそれを勤勉に暗 し、正 かつ 密に におこしました。クルア ンは 言者の教友たちとその　者たちによって、今日まで　的に暗唱されてきました。要 すると、クルアンはアッラ から全人 への きと救いのために 示された神の 典なのです。

今日でもクルア ンは多くの人により暗 され、学ばれています。クルア ンの言 であるアラビア は、今でも大 の人に されている生きた言 です。他のある の宗教の 典とは い、クルア ンは 在も数多くの人々に原典そのままの言 で まれ けています。クルア ンはアラビ

ア において生きた奇 であり、模 不可能なその文体、精神的インパクト、またそこに含まれる独特な知 で知られています。クルア ンは 言者ムハンマドに23年 に渡り、 した 示として えられました。他の多くの宗教 とは 照的に、クルア ンは常にアッラ の正 な言 として信じられてきました。クルア ンは 言者ムハンマドの生存中も、そしてそれ以 も、公共の においてムスリム、非ムスリム大 方の前で暗唱されてきたのです。

また全クルア ンは、 言者の数多くの教友によって一字一句 示された通りに暗 され、また 言者の生存中に完全に き留められました。クルア ンは常に一般信者の手に会ったのです。またクルア ンは常に神の言 として考 され、 まった暗 により完全に保存されたのです。そこには、宗教委 会などにより 更されたり新たに定められたりしたいかなる 所もありません。またクルア ンの教えは‘ ばれた人々’や特定の部族などではなく、全人 への万人の 典として 成されています。そこには何も新しいものはなく、ただ“唯一神アッラ に服 し、かれのみを崇 し、そして 世の成功と来世での救いのためにアッラ の使徒たちに う”という他の全ての 言者と同一メッセ ジが含まれているだけなのです:このようにクルア ンにおけるアッラ の 示は、人 にアッラ の唯一性の信仰と、また彼らがイスラ ム法の中で明 にされたアッラ の きに沿ってその生活を形作ることに重点を置いています。クルア ンにはノア、アブラハム、モ ゼ、イエス（彼ら全てに平安がありますように）など以前の 言者たちの と同 に、神からの命令と禁止事 も含まれています。多くの人々が疑いや精神的 望、そして社会 政治的 外に き まれているこの 代において、クルア ンの教えは今日の私たちの生活の空虚さや世界の注目を集めている の解 策を示しています。

7.

ムスリムは人 の本 、人生の目的、そして来世の生活についてどの

クルア ンの中でアッラ は、人 はかれを崇 し称えるために 造されたのであり、そして真の全ての崇 行 の基 は神への自 であると教えています。アッラ の全ての 造物は先天的にかれを崇 していますが、人 だけが 造主であるアッラ を崇 するかそれを拒否するかの自由意思を持っています。これは 大な ですが、同 に 大な名誉でもあります。イスラ ムの

教えは生活や 理など全ての 面を　しているので、神を自 することは人 の全事象において推 されています。イスラ ムは、もし何らかの行 を神の神 な 典と法に って神のためだけに行ったのであれば、いかなる人 の行 でも崇 行 になりうることを明 にしています。イスラ ムでの崇 行 は宗教的 式だけに限らないことから、イスラ ムは宗教というよりはむしろ‘生き方’と言った方がより正 でしょう。イスラ ムの教えは人 の魂に しや慈悲を与えており、また慎み深さや　さ、忍耐 さや慈善の精神などといった特性が く推 されています。また全能の神だけが人 の公正を 判することから、イスラ ムは高慢さや独りよがりを非 しています。人 の本 についてのイスラ ムの考えもまた　的でバランスのとれたものです。人 は本 的に罪深いとは考えられていませんが、善 の 方であることが同等に可能であるとみられています。それは彼らの　なのです。イスラ ムは信仰と行 は　していると教えています。神は人々に自由意思をお与えになられました、そして人の信仰はその行いと行 により量られるのです。しかしながら人 は生まれつき弱く、かつ罪に りやすく 造されたので、アッラ が望まれる崇 行 の一形式でもある　的な きと悔悟を必要としているのです。神のその威 と英知によって 造された人 の本 は、生まれながらに‘堕落’しているのでも、 正が必要なわけでもありません。改悛の道は常に全人に向けてかれているのです。全能の神は人 が ちを犯すことをご存じであり、ゆえに本当の　は彼らが罪を 悔してそれを断ち切るか、あるいは彼らがそれが神が御悦びにはならないことであることをよく知っていながらも、罪と 当さの人生を 先させるかということにかかっているのです。

イスラ ム的生活の本当のバランスは、犯罪や罪に するアッラ の公正な に する健全な畏れと、私たちの善行とアッラ への真 な崇 ゆえにかれがその 尽の慈悲でもってその 酬を悦んで与えてくれるということへの　な信仰の上に成り立っています。アッラ への畏れのない生活は人を罪や不　へと き、また神がお赦し下さらないほど多くの罪を犯してしまったなどと信じることはただ 望へと人をいざなうのです。イスラ ムはこの真 を考 して、神の慈悲への　った 望と邪 な犯罪者のみが 造主で 判者であられるアッラ への畏怖の念に欠けていると教えます。また 言者ムハンマド(彼に平安あれ)に 示された クルア ンはまた、来世での生活と 判の日についての莫大な量の教えを含んでいます。ムスリムは全人 が最 に　的 治者そして 判者であられるアッラ により、彼らの信仰と 世的生活での行に して裁かれることを信じています。崇高なるアッラ は人 を裁かれる に、本当に罪深

く反抗的で 悔のない犯罪者のみを し、またかれの英知によってその慈悲に する者をそれでもって裁くのであり、完全に慈悲深く、かつ完全に公正なお方なのです。 も彼らの能力以上のことや、または　にしなかったことについては裁かれません。全ての人 がアッラ の御前で彼らが 世で行ったことの 任を われるということは、イスラ ムが人生の造主であり全能で最も 明であるアッラ により　された　であると教えていることを十分 えています。来世の生活への　な信仰こそは、バランスのとれた道 的生活へ く です。この信仰がなければ人々は人生をそれっきりのものと なして自分 手になり、 理や道理を 牲にしてさえも盲目的快 を追及するという物 主 的かつ不道 な状 に ってしまうことでしょう。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1578

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。